

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700018		
法人名	有限会社 富士建設		
事業所名	グループホーム ありがとう		
所在地	兵庫県美方郡新温泉町七釜329-1		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	2014年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成25年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海、山、川に囲まれた自然いっぱいの地域の中にあるこの施設は四季折々の美しい景色があります。お風呂は天然温泉で寒い冬でもほかほかと温まり喜んでいただいています。体の機能を保つために心身体操、健康の維持増進の為に温熱療法を取り入れて”あええ塩梅です、気持ちえーです”と喜んで頂き、又室内のゲームとしてでゲートボールとゴルフを合体したゲーゴルフゲームを楽しみながら勝敗を競って日々過ごして頂いています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年が経過し、立ち上げ時の無我夢中だった時期を乗り切り、職員も定着してきている。利用者、職員共に心おだやかに過ごせ、「ここでお世話になりたい」事業所を目指して、日々、努力を重ねている。ケアマネジャーが現場の声を取り上げて、介護用品を手作りで改善したり、社会保険労務士を講師に迎えて、毎月1回職員研修を実施してスキルアップを図るなど、前向きな取り組みを行っている。また、利用者にいつまでも元気でいてほしいという思いから温熱療法を実施している。まだまだ、改善すべき点が随所に見られるが、職員全員の利用者に対する熱い思いと、サービスの質の向上を目指す積極的な取り組みは、今後の成長が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と共に理念を共有し実践につなげています。	入職時には理念について説明している。その後は理念について話し合う機会はない。事務所に掲示されている理念の「ホームは我が家」「生活を共にする人」の文字が消えて、ほとんど読めない。帰ることを知らせないために挨拶をせずに帰るなど間違ったとらえ方をしている職員もいる。	理念が職員の身近なものになるよう、グループホーム独自の具体的なわかりやすい理念を職員全員で考えてみてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが交流しています。	地域の祭りに利用者と一緒に職員も参加している。村の中を散歩していると、気にかけてくれ、花や野菜、果実のおすそ分けをいただくこともある。地域とのつきあいを心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか地域の人たちに発信できていないのが現状です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見・要望等をいただきサービスの向上に活かしています。	利用者の生活状況、行事、第三者評価結果等の報告を行っている。地域の出席者(地区長)からは地域の情報や意見が出る。家族の出席が難しいので、今後は行事の折などを活用した、開催時期の工夫を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時のみ連絡を取っています。	ノロウイルス発生時の対応について相談する。町の担当者が変わるので、相談しにくいことがある。地域包括支援センターは運営推進会議に出席してもらったり、待機者情報をもらったり、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておりません	帰りた願望の強い利用者がいるため、玄関の鍵をかけている。それ以外の身体拘束の事例は見受けられないが、職員研修は実施していない。	他施設の事例等を研修材料として、具体例を上げての職員研修を繰り返し実施していただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などの時に虐待について話をする機会を設け職員一同が虐待とは？とゆうことに意識の統一を図ってます。	虐待の事例はないが、職員によっては、暴力的な言葉使いがみられることがある。言葉使いに関する研修は行われているが、虐待についての研修は実施されていない。	高齢者虐待防止関連法に基づいて、具体的な事例を上げて、研修を実施すると同時に、職員間で注意し合う雰囲気作りを行っていただきたい。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度に関しては今一つ勉強が不十分なのが現状です。	制度を利用していた利用者がいたため、おおまかには理解している。ケアマネジャーが理解しているので、対応は可能である。管理者より説明することがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設としての一通りの説明をさせて頂いた後、疑問であったり納得のいかない部分はその都度尋ねて頂くようにしてます。	説明は管理者が行っている。料金のこと、退居の条件について、特にていねいに説明する。改正や変更については、文書で通知している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケートボックスを設け気軽に意見、要望等を寄せて頂けるように努めています。	面会に来られた時には必ず一声、声かけし、話しかけて、聞くようにしている。なかなか意見が聞けないことから、工夫を検討中である。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	色々な部分で職員の意見や提案を聞く機会を設け出来る事は検討し反映につなげています。	2ヶ月に1回、代表者又は管理者が個別面談を行っている。職員同士の人間関係に関する意見が多く出る。職員の意見により、おむつカバーの改善を図った事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の内規を設けそれを基準に個々の評価等で給与・賞与を設定するように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の実績、能力等に応じ研修を受けたり、働きながら資格を取れるように配慮に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当時は頻繁に他施設との交流に努めていましたが最近は交流という事の取り組みが出来ていません。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に利用者、家族の要望等の記入して頂く用紙を渡して提出して頂くよう努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に要望を書いて頂いた用紙を参考にサービスに努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」何がベストなのか見極めながらサービスに努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に暮らしているという立場でのケアを心がけて努めて頂いています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんと家族さんの関係がいいものであり続ける様に施設として支援に努めています。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係が継続出来る様に努めています。	友人、親類の面会はよくある。馴染みの散髪屋が事業所に来てくれる。お墓参りや法事に出かける。職員をしていた利用者に助役が訪ねた例もある。馴染みの人の面会は歓迎し、支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係の良しあしを見極め食堂の席の配置などにもいろいろなことの配慮に努めています。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後もお手紙で施設での様子をお伝えしたり残っている写真を送ったりと関係を続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望、意向をつきつめると自宅に帰りたいに行きつき落ちて頂くことが困難となり家までおつれする事が、時々あります。	利用者と一緒にティータイムをしながら話を聞く。夜勤時は比較的時間に余裕が持てるので、個別に十分時間をとって、話を聞いている。把握が困難な場合は利用者の表情で察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、暮らし方は入所当時はお聞きしますが、それが施設生活になかなか反映できておりません。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限りひとりひとりの意思に沿った生活をして頂けるように努めています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんがよりよく暮らして頂けるよう利用者さんの状態の変化に則した介護計画を作成しています。	家族の意見は聞いているが、具体的な要望、意見の聞き取りが出来ていない。職員の意見のみのサービス計画になっている。	家族の意見のていねいな聞き取り、利用者本人、医療関係者等の意見を取り入れたサービス計画を作成していただきたい
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はもとより、利用者さんの状態の変化を職員間で話し合い情報を共有し対応の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりのニーズに100%お聞きするのは難しいけど固定的なサービスではなく要望等により柔軟なサービスを心がけたいと思います。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源をおかりしながらひとりひとりの豊かな暮らしにつなげていきたいと思えます。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は利用者さん家族さんの希望によりかかりつけのどこに行っていたいです	家族によるこれまでのかかりつけ医の受診を、原則としている。やむをえない場合は職員が支援し、常に家族と情報共有を図っている。看護師が必要に応じて利用者の状況等を文書で伝え、かかりつけ医との情報共有に努めている。歯科及び他科についても家族の受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の職員が日常のなかで利用者さんの体調の変化を察知し看護師等との相談により受診するか否かを検討し家族さんに連絡します。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合その後の様子や検査の結果については家族さんの方よりお聞きして利用者さんの状態を把握しています	入院時は、看護師が状況確認、今後の対応について家族とも相談し、医療関係者との連携を図っている。職員も病院に訪問し、利用者が安心して治療できるよう心がけ、家族の負担感を減らすようにも努めている。利用者、家族の意向を優先し、早期退院に向け医療関係者との協力体制を築いている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期について施設で出来る事を説明させて頂き、その後の方針と一緒に検討をさせて頂いています。	契約の際にも、重度化や終末期の対応等を説明し、事業所ができる対応、方針について理解を得ている。入院時には、今後の状況等も踏まえ、早めに家族の意向を聞き、医療関係者と話し合いの場を持っている。事業所は利用者、家族の意向を優先し、可能な限りそえるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	広域消防署の協力のもと救命救急の講習、AEDの対応方法の訓練の講習を受けています		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は地域の方の協力なしではできませんのでいざという時協力いただけるようお願い致しています	年2回の定期的総合訓練を利用者も一緒に実施している。夜間想定での訓練では、2階利用者の車いすでの階段での移動、職員の連絡体制等実際に即した訓練を行うなど、今後も継続した訓練を考えている。地元の自衛消防団への協力依頼はしているが、参加はまだ得ていない。	運営推進会議でも検討され、訓練時に地元の人に見学依頼の働きかけを行うなど、協力体制を深める取組みを期待したい。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員によってできていない部分があり、職員研修により職員の意識の統一を図っている最中です。	今年度、月2回社会保険労務士による倫理、接遇全般に関する研修を実施している。職員一人ひとりの自覚と意識の定着を図り、時間をかけて周知に努めている。人としての基本的な姿勢を重視し、実践に活かせるよう考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をお聞きすることはするが、自己決定し、実行するにはいたらない状況である		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースでなくある程度日々の日課に沿って過ごして頂いています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望に応じて店に行き髪留め等選んでいただいて身だしなみを心がけて頂いています		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆さんの楽しみの一つでもありますので季節に応じて旬の物を取り入れ、メニューのリクエストを聞いたりしながら作って頂いています	職員が地元の旬の食材を工夫し、利用者からのリクエストも参考にして献立を考えている。利用者も一緒に食材の買い出しに行き、意向も聞きながら馴染みの家庭料理を心がけている。得意なことや役割に応じて一緒に携わっている。職員は検食として一緒に食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいないので栄養のバランスは取れているかどうか分からないですが、職員さんに田舎の家庭料理を作ってもらっていますので栄養不足の面は大丈夫と思います		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの促しはしますが嫌がられるひとは嗽だけでもして頂くようにしています		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用を出来るだけ減らすように努力はしているがなかなか結果につながっていない	看護師が、利用者の食事や水分量等の体調管理と並行して排泄状況の確認を行うなど、職員と協力して自立に向けた支援に努めている。トイレでの排泄を基本とし、普段から排泄ケアの工夫を心がけている。職員手作りの綿パンツを考案し、実践に活かす予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな時はバナナや牛乳を食べたり飲んだりして頂いています		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全又は職員の勤務形態上曜日も時間帯も決めて入っていただいています	最低週3回は入浴してもらおうよう、予定日は決めているが、できる範囲での柔軟な対応を図っている。体調管理を重視し、看護師の事前チェックを行い、安心して入浴してもらっている。温泉だけでなく、ゆずや菖蒲の季節風呂、職員との会話を楽しみにしている人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに応じて休んで頂いてますが、夜間あまり遅いようでしたら寝て頂くように声かけをしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理・受診は主に看護師に一任してますが状態の変化、症状は職員でも観察はしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には役割を持って頂いて出来る事を出来るだけして頂くよう支援させて頂いています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のかたへの協力は得てませんが、職員レベルで希望者のかたには戸外のいろいろなところへ外出して頂いています	冬の間雪が多く、外出機会が少ないことから、気候を優先し、できるだけ外に出るようにしている。食材の買物ついでに、寄り道をしたり、ドライブすることもある。畑や花の手入れ、散歩など外気浴も兼ね、気分転換を図るようにしている。家族の協力で自宅に帰宅したり、外食に行く人もいます。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のトラブルを避けるためにできれば所持金は無い方がありがたいですが、持てないことへの不満が大きい場合は少し目のお金を持って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族にお電話したり書いたお手紙を一緒にポストに投函したりしています		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂きたく壁などに季節の木花などを型どった物を張ったり飾ったりしています	利用者、職員の手作り作品がさりげなく飾られ、季節感を感じる。リビングのソファは、利用者の好みの場となっており、廊下には椅子が配置され、個別に過ごせる。冬の期間が長く、乾燥しすぎを防ぐため加湿器を常設し、空調には配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭くはあるが一人になりたいとき又は個人的に話がしたい時などに利用して頂けるスペースを設けています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に持ち込みの物は遠慮なく使っていたものを持ってきていただくようにしています	入居時に、馴染みの物の持ち込みをお願いしている。趣味の物やお気に入りの写真や絵を飾ったり、自分が大事にしている物を手元に置いている人もいる。生活が落ち着いてから少しずつ家族が必要な物をそろえたり、職員が利用者と相談して写真を飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は本当に狭く個々の状況に応じた対応が出来るだけのスペースが無いのが現状ですが天気の良い日はなるべく外へ出てリフレッシュして頂いています		